

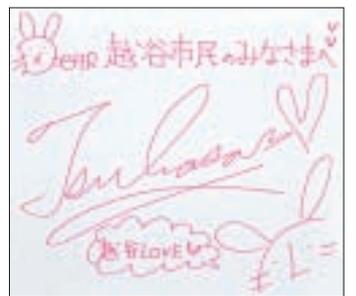
ときめき インタビュー



写真提供：(株)エイジアプロモーション

…プロフィール…

1985年10月13日生まれ。蒲生南小学校、南中学校、草加東高校卒業。17歳のときに「Popteen」の読者モデルとして初登場。CMやドラマなど多数のテレビ番組への出演のほか、化粧品やアパレル商品のプロデュースなど、幅広く活動。昨年にはMilkyBunny名義でアーティストデビュー。ファーストアルバム『MilkyBunny』も絶賛発売中。



益若さんからかわいいメッセージをいただきました

ファッションへのこだわりは

自分の名前への

コンプレックスから

「子どものころは、自宅近くの用水路でカエルやザリガニを捕まえてたりして遊んでいました」

子どものころの自分を「男の子みたいでしたよ」と話す益若さんですが、名前が原因で本当によく男の子に間違えられたそうです。

「名前(本名)が『翼』なので、男の子によく間違えられました。それがすごく嫌で、洋服にこだわって女の子らしく見えるようにしていました。通っていた保育所ではスカートが禁止されていたので、家に帰るとスカートに履き替えて外に遊びに行ったり、髪を伸ばしたり、ファッションに人一倍こだわっていました」

実は、ご両親は男の子が生まれてくると思っていたそうです。ファッションへのこだわりは、中学生になっても続きます。

「中学生のときは、おしゃれがしたくて髪を染めたり、スカートの丈を短くしたりして、先生に怒られました。でも、見た目だけで悪く判断されなくなかったから、

勉強もしましたよ。数学や英語は駄目でしたけど、国語は作文が得意で5段階評価でいつも5。美術や書道、音楽も好きでした」

人見知りか激しくて

自分の意見が言えない

高校生のとき、都内でたまたま撮影されたスナップ写真が10代の女性向けファッション雑誌に掲載されたのをきっかけに、益若さんは卒業後、雑誌のモデルとして本格的に活動を開始します。しかし、そんなおしゃれで活発な彼女にも意外な一面が…。

「学生時代はすごい人見知りで、自分に壁を作って、自分の意見が言えませんでした。雑誌のモデルの仕事をするようになってから『どう思っているか分からなくてとっつきにくい』と友達に言われたことがあって、言葉にしないと伝わらないし、逆に相手に気を遣わせていたんだって気づいたんです。それ以来、自分から打ち解けていこうと努力するようになって、友達もたくさんできるようになりました。その友達から『あなたと もっと仲良くなりたいたいから言うん

だよ』と言われたのがすごくうれしくて、今も感謝しています」

ファッションも、昔はしゃべるのが苦手だったため、自己表現の手段だったと言います。

「話すとおとなしいけど見た目は派手。本当の自分はこうなんだよ、みたいな。洋服や髪で自分を表現しようとしていました」

私の商品がきっかけでメイクが好きになり、自分に自信をもってもらえたら素敵ですね。

メイクの楽しさをみんなにも知ってほしい

モデルやタレント、歌手など幅広く活動中の益若さんですが、現在の仕事の中心は、化粧品などの商品開発だそうです。

「自分の欲しい物が形になり、それを手にした子たちから『メイクが楽しくなった』『好きな人にかわいいと言ってもらえた』と聞くと、すごくうれしく思います。私もメイクが大好きで、メイクの楽しさを知らないのはもったいないと思っていましたから」

また、今後は音楽活動にも力を入れていきたいと話していました。

「詩には、自分自身のすべてを表現できます。音楽は、商品開発

の経験や洋服の知識など、これまで学んできたことを全部生かすことができ、難しいけど新鮮で、楽しみながらやっています」

ずっと住むなら越谷

今は市外に住む益若さんですが、実家のある越谷には、たびたび戻ってくるそうです。

「越谷は都内にも近いし、こんなに住みやすくして落ち着く場所はないと思っています。ずっと住むなら越谷ですね。おいしいお店もいっぱいあるので、仕事帰りなどにマネージャーや現場のスタッフを誘って、越谷のお店を案内しています。今でも越谷を堪能しているんですよ」



写真提供：(株)エイジアプロモーション by Candy Doll

モデル／商品プロデューサー

益若 ますわか つばささん

雑誌やブログで身につけたものは常に爆発的人気と呼ぶなど「限りなく読者に近いモデル」としてティーン世代の圧倒的な支持を得ている益若つばささん。ファッションやメイクが大好きと話す益若さんですが、「素顔」の彼女はどんな女性？事務所を訪ね、子どものころのこと、越谷に対する思いなど、話を伺いました。